

■共有の深さ■

ほぼ週刊【松村拓也のメールマガジン】第 543 号

こんにちは、松村拓也です。

E-Mail と Facebook で「実現俱楽部」を中心に松村拓也の活動について、ほぼ毎週お届けしてきましたが、今号で一旦区切りをつけて、次号より【実現俱楽部だより】に切り替えます。

名刺交換した方や、突然思い出した方にもお届けしますので、ご迷惑であればお知らせください。

できれば勤務先でなく、個人のアドレスにお届けしたいので、ご連絡ください。

ご意見、ご質問大歓迎です。

スマホは横向きにすると文字が大きくなります。

・・・・・・・・・・・・

543 目次

1. 報告とお願い
2. 実現ブログより：共有の深さ
3. 居場所・連絡先
4. このメルマガについて

・・・・・・・・・・・・

1.報告とお願い

冒頭にも書きました通り、このメルマガは今回で一旦終わり、来週から【実現俱楽部だより】にリニューアルしたいと思います。

そもそも 2011 年 3 月からスタートした【起業マインドレター】を第 100 号で終了し、2015 年 4 月 23 日からのメルマガを始めたので、今回のリニューアルは 3 度目の正直となります。

いつものことながら、まずは宣言してから実行する「有言実行」のパターンですが、今後は「実現俱楽部」の活動を僕の生活の中心に据えて、その連絡ツールとして発信したいと思います。

しばらくの間は思考錯誤が続くと思いますが、皆さんのご参考になりそうなことを選んで発信しますので、お許しください。

・

今週お誘いしたいイベントは、下記の通りです。

- ・ 9/09(火)20-21 時 LR オンライン MTG (土地資源に関する情報共有)

メゾンふきより zoom 開催しますので、参加希望者はご連絡ください。

- ・ 9/11(木)17-19 時 笑恵館運営会議 (どなたでも参加できます)

また、下記のイベントはおかげさまで満席となりましたので、ご報告をお楽しみに。

- ・ 9/12(金) ふきの庭ツアー「片貝 花火まつり」(世界最大 4 尺玉を体感します)

上記の他、僕は火・木・土は世田谷の笑恵館・一宮庵・日楽庵を中心に、残りの水・金・日・月は、大田区のふきの庭を中心にカブ (原付バイク) でどこでも駆け付けますので、遠慮なくお誘い下さい。

・

上記以外の時間帯は、24 時間営業ですので、いつでも気軽にお問合せ下さい。

松村の予定はこちらで随時公開しています。

<http://nanoni.co.jp/schedule>

2. 実現ブログより：共有の深さ

ご存知の通り、僕は土地資源の活用に取り組んでいる。

土地資源とは、「土地と付随するあらゆる現状」という意味で、立派なビル、ぼろ家、農地、山林など、様々な空間を何かを実現するために活用する取組だ。

だがこれは、自分の家をいつまでも活用して欲しいというある所有者の夢を叶えるための取組で、土地資源の活用は手段に過ぎず、あくまで目的は個人の夢の実現だった。

「最期までこの家に暮らし、その後もそんな家であり続けて欲しい」という「永続する夢」に出会った時、僕は新鮮な感動を覚えた。

実現したい夢が手の届かない遠くにあると、途中で諦めてしまわないように、実現可能な手の届く小さな夢も合った方が良いと僕も思う。

だがそれは、あくまで途中の通過点であり、夢は簡単に実現できないし、永遠に実現できないかもしれないが、「いつまでも目指し続けること」に価値があるなら、それでもかまわないと思っていた。

でも、「さっさと叶えていつまでも継続する夢」とは、まさに今世界が求めている平和や安心、融和などが当てはまる。

そんな気付きから、土地活用の永続化が僕の夢に浮上した

・

そこですぐに思いついた方法は、土地所有の法人化だ。

江戸時代まで長く続いた日本社会の持続の仕組みは、明治維新における民主化と資本化によって個化（個人欲優先化）が進み、土地所有者は日本国から土地を固定資産税で賃借する店子になり下がったことは、拙著「地主の学校」に記した。

崩壊した地主制度を社団法人の仕組みを使って開放的に再生する試みが「日本土地資源協会（LR）」だ。

そもそも法人の価値は個人に依存しない持続信頼性であり、法人化による個人（自然人）からの不死身化、組織化による孤立からの脱却、そして集団化による継承者の育成が可能となる。

笑恵館を始めとするLR事業は、その法人所有化を前提に組織と事業を整備する取組だが、永続利用を担うコミュニティづくりこそがその核心だ。

土地利用を主体的に担う集団は、まさに地域社会であり、これは小さな国づくりと言える。

・

さて、ここからが今日の本題だ

国づくりの核心であるコミュニティづくりは、一体どうやって進めるのか。

「コミュニティ」を「何かを共有する集団」と定義する僕にとって、土地資源を共有するコミュニティこそが真の地域社会だと思う。

日本という国だって、国土が国民の共有財産なら、みんなで土地を大事にするし、売買なんかしない。

都会で家賃を稼いで、自然の保全に使えば、さらに魅力的な国土になって価値が上がるかも。

そんな視点から日本を見ると、日本国（及び自治体）は道路や公共インフラだけを所有して、残りを固定資産税で賃貸している。

外国人が日本の土地を買っているというけれど、実際には賃貸と変わらないので、土地売買に制限はない。

ならば安心かというと、建築や開発を制限せずに空き家や放棄地は増えるばかりで、むしろ利益優先の悪徳地主の様相を呈している。

・

そこで僕は、これに対して異議を唱えるのではなく、自分が所有する土地で行う小さな国づくりを応援することにした。

その方法は、土地を共有するメンバーを国民と思って募集することだ。

たとえ小さな国づくり（ごっこ）でも、これが出来なければ、ホントの国づくりなどできるはずがない。

笑恵館で「笑恵館クラブ」を作ったように、名栗の森には「名栗の森オーナーシップクラブ」、ふきの庭には「ふきの庭俱楽部」、そして先月一宮庵（いっくあん）で「一宮庵俱楽部」を立ち上げた。

これらのコミュニティが、土地資源を活用する事業を立ち上げて、固定資産税（賃料）相当額を稼げるようにならなければ、日本における土地所有は継続できない。

だが逆に、土地を共有するコミュニティが賃料相当額を捻出さえし続ければ、日本での土地永続所有は成立する。

そのコミュニティが法人化すれば、不死身となって相続と無縁となり、実際の後継者育成だけが課題となる。

・

こうして見ると、ここで実現すべき夢の姿はコミュニティの確立だ。

それは決して遠い未来の夢でなく、さっさと実現してから持続に挑むべき夢だと思う。

では、コミュニティづくりでやるべきことは何かといえば、それは「情報の共有」に尽きると言っていいだろう。

かつて家を共有し継承してきた「家族」が、個人情報を共有するコミュニティだったことに着目したい。

先ほど述べた「個化（個人欲優先化）」は、家族までをも崩壊し、家族内の相続争いを助長している。

親の老後を施設に任せたり、子どもの世話になりたくないとか、自立の支援が促進されるが、相互依存無しの持続の仕組みはまだ未知数だ。

情報共有の取組とは、どこまで共有可能なのかを探ることを指す。

先日、笑恵館の入居者 MTG で、緊急連絡先の情報を入居者全員で共有することを決めたばかりだが、これは他人が家族に近付いた大きな一歩だと思う。

「共有とシェア」の違いを実感できるのが、土地と情報の共通点かも知れない。

これまで「シェアを分割」、「共有をビロング（所属）」とこじつけて理解してきたが、今日は「共有は身内（家族）」、「シェアは他人」と、共有の深さ（強さ）のようなものを感じた。

<https://nanoni.co.jp/250908-2/>

・・・・・・・・・・

3.居場所・連絡先

松村拓也 メール takuya@nanoni.co.jp

携帯 090-9830-3669

■拠点

一宮庵 東京都世田谷区成城 6-22-7

火曜 <https://ikkuan.com/>

笑恵館 東京都世田谷区砧 6-27-19

木・土曜 <http://shokeikan.com/>

ふきの庭 東京都大田区東矢口 1-10-8

上記以外 <http://fuki.land-resource.org/>

■主な所属法人:

取締役 (株)なのに <http://nanoni.co.jp/>

取締役 (株)KITAKEN

代表理事 (一社)日本土地資源協会 <http://land-resource.org/>

監事 (一社)ワンフォーワン <https://oneforwan.org/>

監事 (一財)八島花文化財団 <https://yatsushimahana.com/>

監事 (特非)外浦の未来をつくる会 <https://www.facebook.com/sotouranomirai>

監事 (特非)えん <https://www.act-en.org/>

■地主の学校・販売中

<https://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail/978-4-286-23339-0.jsp>

セミナー、読書会など気軽にご相談ください。

• • • • • • • • • • • • • •

4. このメルマガについて

松村拓也とご縁のあった方に、日々の活動やブログ記事などの情報をほぼ毎週お届けします。

参加希望、ご意見、ご質問など、何でもこのメールに返信してください。

バックナンバーはこちら

<http://nanoni.co.jp/magazine/>

メール配信をご希望の方はこちら

<http://eepurl.com/dHjgFX>

まぐまぐ版はこちら

<https://www.mag2.com/m/0001693746>